

池田美智子先生流女性医師支援とは

RJN 担当理事 浅見豊子

池田美智子先生のことを知りましたのは、「女性医師のための保育所を自己資金を補填しながら経営しているのですよ。」というご主人でいらっしゃる池田康夫先生（日本専門医機構理事長）のお話からでした。赤字経営など全く気にされず、女性医師のためにということだけでご自分の思いを形にされ、まるで大地の母を体現されているかのようなお話に、その時私は大きな感動を覚えました。そしてその思いが詰まった保育所を自分の目でも確かめたくなり、それからしばらくして保育所を訪問させていただきました。その保育所は、ハード面でもソフト面でも女性医師としての細やかな気配りがなされた設計で、子供たちがママのいない日中を健やかに楽しく過ごす環境としては素晴らしい場所でした。今でこそ、世の中における女性支援の声が大きくなり、女性医師自身の環境についても整備されてきていますが、それでも女性が医師を目指し医師の仕事を継続していくためにはいくつもの障壁があります。しかし、池田美智子先生が「Dr.MOM Nursery School」を開設された平成 18 年当時は、女性医師の環境への配慮は少なく、女性医師は自己努力により奮闘しながら仕事をしてきた時代でした。そのような時代に、公的支援を得ることもなくご自分のお力だけで、女性医師の将来を思い女性医師のための保育所を設立されたことには非常に大きな意義があります。そして私たちは、このような先生の存在を知ることにより、女性医師の素晴らしさを感じ、さらに女性医師として未来へしっかりと前進していくためのパワーを得、自分でできる小さいことからでも、同僚や後輩女性医師、そしてその子供たちのために何かできるのではないかという思いも生じてきます。女性医師が仕事をするということにおいて、『女性医師の充実した仕事』と『子供たちの幸せな生活』とが反比例するのではなく、女性医師とその子供たちがともに幸せである必要がある」というとても重要なことを、「Dr.MOM Nursery School」を通して支援されてきた池田美智子先生のお話を日本リハビリテーション医学会専門医学術集会において直に拝聴できたことは大変有難いことであり、多くの方々が女性医師支援についてあらためて考えるきっかけになったのではないかと思います。今回、この素晴らしいご講演を RJN の HP にアップいたしました。ご講演を実際に聞かれた方は再度お話を思い起こしていただき、聞かれなかった方はゆっくりとお読みいただき、池田美智子先生の女性医師支援に対する熱い思いと行動力を知っていただければ何よりです。この池田美智子先生のお話は、私たち RJN に対するエールでもあります。これからも RJN は、女性医師支援にたいして RJN としてできることを見つけながら活動していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

女性医師のための保育園

「Dr.MOM Nursery School」から見た女性医師の現状と課題

池田耳鼻咽喉科院長 池田美智子

平成 16 年頃から、女性医師が増加している中、結婚・出産・育児のために休職・退職する女性医師の存在が、医師不足の要因になっていることが社会問題としてクローズアップされ始めた。当時、公的保育所の待機児童は 2 万数千人と言われ、女性医師も育児をしながら仕事をしたいと希望しても子どもを預ける保育所がなかなか見つからない。幸運にも預けることが出来たとしても、認可・認証・無認可の既存の保育所では、女性医師のニーズに十分対応出来ていないと言え、また、院内保育所の整備も十分ではなかった。そこで、女性医師の仕事の特殊性を十分配慮した、そのニーズに対応する保育園を目指し、平成 18 年 8 月新宿区左門町に女性医師のための保育園「Dr.MOM Nursery School」を開設した。現在 40 数名の園児がいる。

女性医師の現状は、医師国家試験合格者に占める女性医師の割合は平成 12 年より 30% を超えている。医療施設（病院・診療所）に勤務する女性医師の割合も増加しており、29 歳以下では 35.5%、30～39 歳では 29.8% である。この 35.5% から 29.8% への減少は、出産・育児のために休職・退職する女性医師の存在が示唆される。女性医師の 76% が結婚、その 82% に子どもがおり、結婚年齢は 25 歳～33 歳、出産年齢は 27 歳～35 歳、70% が非常勤というデータがある。従って、女性医師にとって、卒後大学病院並びに教育的基幹病院で医師としての初期研鑽を積む重要な時期が、出産・育児のそれと重なることになる。

そこで、この時期（卒後 10 年間）のキャリア継続を支えることが、医療現場の医師不足解消と女性医師の将来のキャリア向上と活躍に繋がるものと考えられる。そのキャリア継続のための育児と仕事の両立支援の中でも保育支援が重要である。

よって、未だ待機児童が 2 万人以上と言う公的保育所の整備が十分でない現在、卒後の女性医師が医師としての初期研鑽を積む大学病院及基幹病院内保育所の設置が喫緊の課題となる。

院内保育所の現状は、H23 年の全国医学部長病院長会議の調査によれば、院内保育所設置率は国立 95%・公立 88%・私立 79%。H24 年の全国私立医科大学同窓会連絡会による調査では、私立医科大学病院内保育所設置率は 86% と増加しているが、その保育の内容は十分とは言えない。

保育所の経営は赤字が常識と言われている。大学病院を含む全国医療施設を対象とした H20 年の日医総研の調査では、1 施設平均年間約 1200 万円の赤字。H26 年の全国私立医科大学同窓会連絡会の調査によれば、1 施設平均年間約 2000 万円である。国の院内保育所助成制度は有るが、実際の補助金受給率は、日医総研調査によれば、51.5%

に過ぎない。国・公立は別の補助金を受けているため対象から除外している。受給していない理由として、交付条件が厳しい、申請書類が煩雑、補助金が少ない。補助金は人件費の20%にも満たない。H26年全国私立医科大学同窓会連絡会調査では、補助金受給率79%。補助金は人件費の10%未満。受給しない理由の1位は補助金の少なさである。

女性医師の育児と仕事の両立支援には保育支援の他に、就業形態の多様化・制度の確立や、復帰支援、社会全体及び職場の意識改革などが挙げられる。H23年の全国医学部長病院長会議調査では、短時間正規雇用制度（常勤）が多く行われており、次いで、勤務時間の短縮（非常勤）、時間外勤務免除、当直免除、日直免除の順になっている。

しかし、今後更に女性医師が増加し、50%近くなった場合には、現在のような短時間正規雇用制度や、勤務時間の短縮、時間外勤務・当直・日直免除など、育児中の女性医師のみが優遇されることは難しい。現在でも、独身女性医師と男性医師に負担がかかっている。近い将来、医師全体の働き方を変える必要が出てくると考える。一人主治医制ではなく医療チームを確立し8時間勤務・交代制にする。そして、昼間の通常保育は地域の認可・認可外保育所に預け、病院内保育は夜間保育（当直時）、休日保育（日直時）、病児・病後児保育を行えば、女性医師も医療チームの一員として十分仕事が可能である。但し、それにはチーム内の意志統一、密なる連携、医師数の増加と財源が必要であろう。

アベノミクスの3本目の矢である国家成長戦略の中核に、「女性が輝く日本」、「女性の登用」が挙げられ、「あらゆる分野で2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%以上とする」と言われている。現在の日本の医学部・医学会・医師会の管理職に占める女性医師の割合は10%以下だ。

卒後10年間の育児と仕事の両立支援による女性医師のキャリア継続と向上が、女性医師が将来活躍し指導的立場に立つ可能性とその裾野を広げることになると確信する。そして、何より女性医師自身の気概が必要であることは言うまでもない。

今後しばらくは、「Dr.MOM Nursery School」の存在意義はあるであろう。女性医師と対象を限っているため、公的補助を受けられず経営は困難であるが、頑張っ後輩の女性医師を支援していきたい。

「Dr.MOM Nursery School」の設立

2006年 5月 新宿区左門町に開園

特徴

- 1) 女性医師のための保育園
- 2) 7時から20時の13時間・長時間保育 月曜日～土曜日
- 3) 突発的ニーズに対応するための延長保育(20時から22時まで)
- 4) 病児・病後児保育 与業実施(月極保育のお子さんのみ)
- 5) 幼児教育にも力を入れる(幼保一体化)



女性医師のニーズに対応できる保育園を目指している

定員40人 生後57日目から就学前まで

月極保育

週1日コースから週6日コース

一時保育 午後保育 シーズン保育

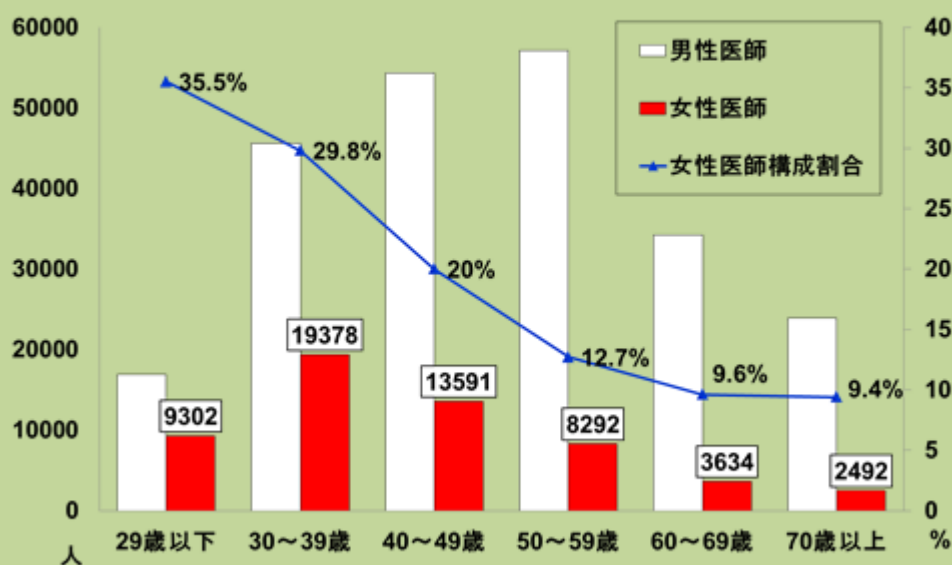


Dr.MOM Nursery School の現状

| 園児人数 | 預かる日数(週)別人数 |
|----------|-------------|
| 0歳児: 9人 | 6日(月～土): 4人 |
| 1歳児: 14人 | 5日 : 21人 |
| 2歳児: 11人 | 4日 : 5人 |
| 3歳児: 9人 | 3日 : 8人 |
| 4歳児: 1人 | 2日 : 3人 |
| 5歳児: 0人 | 1日 : 3人 |
| 計 44人 | 計 44人 |

| 女性医師の診療科別人数 | | 女性医師の勤務先別人数7人 | |
|-------------|-----------|------------------|--|
| 内科 : 14人 | 精神科 : 1人 | 大学病院 : 10人 | |
| 産婦人科 : 5人 | 整形外科 : 1人 | 病院(センターも含む): 11人 | |
| 耳鼻咽喉科 : 4人 | 形成外科 : 1人 | 診療所 : 3人 | |
| 小児科 : 3人 | その他 : 2人 | 会社 : 1人 | |
| 眼科 : 3人 | | 開業 : 1人 | |
| 外科 : 2人 | 計 44人 | 監察医務室 : 1人 | |
| 麻酔科 : 2人 | | 不明 : 1人 | |
| 放射線 : 2人 | | | |
| 皮膚科 : 2人 | | | |
| 法医 : 2人 | | | |
| | | 計 44人 | |

医療施設従事医師数および構成割合 (性・年齢階級別)



厚生労働省統計:平成24年度医師・歯科医師・薬剤師調査結果より作成

私立医科大学12校の女性医師 1199人の特性(H23年)

| | |
|--------|-----------|
| 年齢 | 44±8 y/o |
| 婚姻状況 | |
| 独身 | 194 (16%) |
| 婚姻 | 904 (76%) |
| 離婚・死別 | 95 (8%) |
| 結婚年齢 | 29±4 y/o |
| 出産年齢 | 31±4 y/o |
| 子供の有無 | |
| なし | 189 (18%) |
| あり | 857 (82%) |
| 配偶者の職業 | |
| それ以外 | 262 (27%) |
| 医師 | 699 (73%) |